■使用評価マニュアル: CASBEE札幌(ver.1.0) ■評価ソフト: CASBEE\_Sapporo2007v1.0

スコア	重点評価項目:W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理									
スコアシート			重点評価項目			建物全体·共用部分		住居·宿泊部分		
配慮項目			G G	項目 S	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み	評価点	重み	全体
O 確認	を物の環境品質・性能	W		J		51 E-M	係数	DT JEE AIX	係数	3.4
	<b>E</b> 内環境						0.40			4.0
1 1	F環境					2.2	0.15	3.3	1.00	3.0
	1.1 騒音 1 暗騒音レベル					<b>3.0</b> 3.0	0.40 1.00	<b>3.0</b> 3.0	0.29 1.00	
	2 投稿経費対策				3.0	-	3.0	-		
	1.2 <u>遮音</u>					1.0	0.40	3.6	0.50	
	1 開口部遮音性能				AW+PWでT-3以上相当の建具を使用している。	1.0	1.00	5.0	0.30	
	2 界壁遮音性能 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0 3.0	_	3.0 3.0	0.30 0.20	
	4 界床遮音性能(重量衝擊源)					20	-	3.0	0.20	
	1.3 吸音					3.0	0.20	3.0	0.21	
2 2	<b>主熱環境</b>					3.0	0.35	5.0	1.00	4.5
	2.1 室温制御 1 室温設定					3.0 -	1.00	5.0 -	1.00	
	2 負荷変動・追従制御性						-		-	
	3 外皮性能	W			日本住宅性能表示基準の省エネルギー対策等級4を満たしてい	3.0	1.00	5.0	1.00	
	4 ゾーン別制御性 3 温度・湿度制御					3.0				
	3 加速 北度 明期 8 個別制額						_		_	
	2 時間外空間に対する配慮						-		-	
	8 監視システム						-		-	
_	2.2 湿度制御 2.3 空調方式					-	-	_		
3 4	2.3 空調刀式 <b>七-視環境</b>		<b> </b>			3.0	0.25	3.8	1.00	3.6
آ ا	3.1 昼光利用					3.0	0.43	4.6	0.50	
	1 昼光率				大きな開口部を設け、昼光を確保している。	3.0	0.60	5.0	0.50	
	2 方位別開口 3 昼光利用設備	W			南、東の両面に窓を設けている。	3.0	- 0.40	5.0 3.0	0.30	
	3.2 グレア対策	VV				_	-	3.0	0.50	
	照明器臭のグレア						-		-	
	2 昼光制御	W				-	-	3.0	1.00	
	3.3 照度 1 照度					<b>3.0</b> 3.0	0.21 1.00	-	_	
	2 服度均壽度					3.0	-		_	
	3.4 照明制御					3.0	0.36	-	-	
4 3	<b>图</b>					4.2	0.25	4.2	1.00	4.2
	4.1 発生源対策				内装仕上材、造作材は全てF☆☆☆☆の建材を使用している。	<b>5.0</b> 5.0	0.60 1.00	<b>5.0</b> 5.0	0.63 1.00	
	1 ル子物具パ末 2 アスペスト対策				門級は工術、選門所は主で、メメスの連続を使用している。	3.0	-	3.0	-	
	3 ダニ・カビ等						-		-	
	4 レンオネラ対策						-		-	
	4.2 換気					<b>3.0</b> 3.0	0.40	<b>3.0</b> 3.0	0.38	
	1 換気量 2 自然換気性能					3.0	0.50	3.0	0.33	
	3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50	3.0	0.33	
	4 給気計画						-		-	
	4.3 運用管理					-	-	-	-	
	1 CO <sub>2</sub> の監視 2 喫煙の制御					3.0	-			
Q-2 +	ナービス性能					_	0.30	-	-	3.2
	<b>集能性</b>					3.4	0.40	3.6	1.00	3.5
	1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.60	4.0	0.60	
	1 広さ・収納性 2 高度情報通信設備対応				各住戸に100Mbpsが可能な配線を整備している。	30	_	<b>3.0</b> 4.0	1.00	
	3 バリアフリー計画					3.0	1.00		-	
	1.2 心理性 快適性					4.0	0.40	3.0	0.40	
	1 広さ感・景観						-	3.0	0.50	
	2 リフレッシュスペース 3 内装計画				コンセプトワークに基づき事前検証をした内装計画としている。	4.0	1.00	3.0	0.50	
2 1	3   内装計画 				ファーニー こ チョット Man C O/OF 3 次日 日 C O C V " O o	3.0	0.31	3.0	0.50	3.0
֓֟֟֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֡֓֓֓֓֓֡֓֓֡	2.1 <u>耐震·免震</u>					3.0	0.48	-	-	
	1 耐震性					3.0	0.80		-	
	2 免震・制振性能					3.0	0.20		_	
	2.2 部品・部材の耐用年数 1 外壁仕上げ材の補修必要間隔	W				<b>3.1</b> 2.0	0.33 0.29		_	
	2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	W			耐用年数16年以上の仕上材を使用している。	4.0	0.12		-	
	3 配管・配線材の更新必要間隔	W			配線、配管は耐用年数16年以上の材料を使用している。	4.0	0.29		-	
88	4 主要設備機器の更新必要間隔	W				3.0	0.29		-	
	2.3 適切な更新 単上(屋根)・外壁仕上げ材の更新					•	_	*	_	
	2 配管・配線材の事勤						-		-	
	3 主用設備機器の更新						-		-	
	2.4 信頼性					2.8	0.19	-	-	
	1 空調·換気設備 2 給排水·衛生設備					3.0 3.0	0.20 0.20			
	3 電気設備					3.0	0.20		-	
	4 機械・配管支持方法				ST	1.0	0.20		-	
	5 通信・情報設備				通信ケーブルの布設や精密機器配置への配慮をしている。	4.0	0.20		-	

■使用評価マニュアル: CASBEE札幌(ver.1.0) ■評価ソフト: CASBEE\_Sapporo2007v1.0

スコアシート		重点評価項目:W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理										
配慮項目		は評価	項目		建物全体·共用部分 住居			·宿泊部分				
		G	S	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体			
3 对応性·更新性					3.1	0.29	2.9	1.00	2.9			
3.1 空間のゆとり						-	2.8	0.50				
1 階高のゆとり				階高2900以上としている。	30	-	4.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ					3.0	-	1.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.50				
3.3 設備の更新性 1 空調配管の更新性					3.1	1.00	-	-				
					3.0	0.17		-				
2 給排水管の更新性				構造材を痛めることなく、配管の更新が可能としている。	4.0	0.17		-				
3 電気配線の更新性					3.0	0.11		-				
4 通信配線の更新性					3.0	0.11		-				
5 設備機器の更新性					3.0	0.22		-				
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22		-				
-3 室外環境(敷地内)	+				-	0.30	_	-	3.0			
1 生物環境の保全と創出		G			3.0	0.40		-	3.0			
2 まちなみ・景観への配慮		G			3.0	0.20	-	-	3.0			
3 地域性・アメニティへの配慮		L			3.0	0.40		-	3.0			
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			S		3.0	0.50	•	-				
3.2 敷地内温熱環境の向上	W	G			3.0	0.50	-	-				
R 建築物の環境負荷低減性									3.5			
R-1 エネルギー					_	0.40	-	-	4.5			
1 建物の熱負荷抑制	W			日本住宅性能表示基準の省エネルギー対策等級4を満たしてい	5.0	0.40	-	-	5.0			
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20	-	-	3.0			
2.1 自然エネルギーの直接利用	W				3.0	0.50		-				
2.2 自然エネルギーの変換利用	W		S		3.0	0.50		-				
3 設備システムの高効率化	W			潜熱回収型の給湯設備を設けている。	4.9	0.40	-	-	4.9			
4 効率的運用					•	-	•	-	-			
4.1 モニタリング	W				3.0	-	-	-				
4.2 運用管理体制	W				3.0	-	-	-				
R-2 資源·マテリアル					-	0.30	-	-	3.3			
1 水資源保護					3.0	0.15	-	-	3.0			
1.1 節水	W				3.0	0.60	-	-				
1.2 雨水利用·雑排水再利用					3.0	0.40	-	-				
1 雨水利用システム導入の有無	W				3.0	0.67		-				
2 雑排水再利用システム導入の有無	W				3.0	0.33		-				
2 低環境負荷材					3.4	0.85	-	-	3.4			
2.1 資源の再利用効率					3.0	0.35	-	-				
1 躯体材料の再利用効率	W				3.0	0.67		-				
2 非構造材料の再利用効率	W				3.0	0.33		-				
2.2 持続可能な森林から産出された木材	W				3.0	0.04		-				
2.3 有害物質を含まない材料					3.0	0.08	-	-				
2.4 既存建築躯体などの再利用	W				3.0	0.18	-	-				
2.5 部材の再利用可能性	W			乾式間仕切、吹付ウレタン断熱材等分別が比較的容易な材料を使	5.0	0.18	-	-				
2.6 フロン・ハロンの回避			1	W. I. Andr In the City	3.5	0.18	•	-				
1 消火剤	W			ハロン消火剤を一切使用していない。	4.0	0.50		-				
2 断熱材	W				3.0	0.50		-				
3 冷媒	W				-	-		-				
R-3 敷地外環境	141					0.30	-	-	2.4			
1 大気汚染防止	W		1		3.0	0.10		-	3.0			
2 騒音・振動・悪臭の防止	-	1	1		3.0		•	-	3.0			
<b>2.1</b> 騒音 <b>2.2</b> 振動		1	1		3.0	1.00		_				
2.3 悪臭	-	1	1				*					
	1-	+	1	<del> </del>	10	0.10	-	_	1.6			
3 風害、日照阻害の抑制	1-	1	<del>                                     </del>		1.6	0.10		-	1.6			
3.1 風害の抑制		1	1		1.0	•	-	_				
3.2 日照阻害の抑制	1	1	1	「光害対策ガイドライン」のチェック項目の一部を満たしている。	3.0	0.30		_	4.0			
4 光客の抑制	W		0	・ルロバスのコニノコンコのテエテノ模目の一即で何だしている。	4.0	0.05		_				
5 温熱環境悪化の改善 6 地域インフラへの負荷抑制	VV	G	S		1.0 3.3	0.30		-	1.0 3.3			
		_	1		3.3 3.0	0.40	-	_	3.3			
								-				
6.1 雨水処理負荷抑制	W					•		4				
	W			十分な駐車スペースを確保している。	3.0 3.0 4.0	0.30 0.10 0.30	-	_ _				

■ LF	?─1 用途別得点表	集合住宅	-	-	-	面積按分
		2,871 m2	-	-	_	総合スコア
1	建物の熱負荷抑制	5.0	_	_	_	5.0
3	設備システムの ERRによる評価	_	_	-	-	4.9
	高効率化 個別設備による評価	4.9	-	-	-	
3.1	空調設備	-	-	-	-	-
3.2	換気設備	-	-	-	-	-
3.3	照明設備	5.0	-	=	-	-
3.4	給湯設備	5.0	-	-	-	-
2.5	<b>豆吹继乳</b> 体	20	_			